

## 当科の過去 10 年間における結核症例について

森 淳 酒井正喜 八木沢幹夫 西村忠郎

藤田保健衛生大学第二教育病院耳鼻咽喉科

Tuberculosis in the Field of Otorhinolaryngology ; Diagnosed at Our Department over 10 Years

Jun MORI, Masaki SAKAI, Mikio YAGISAWA, Tadao NISHIMURA

Department of Otorhinolaryngology, Fujita Health University The Second Affiliated Hospital

Recently, the incidence of and mortality from tuberculosis have been decreasing due to public health measures, improvements in the standard of living, and development of better antituberculosis drugs. However some individuals still develop tuberculosis even today, so careful attention should be paid to this disease. We reviewed 8 patients who were diagnosed as having tuberculosis at our department over the past 10 years. The 8 patients comprised 2 with laryngeal tuberculosis and 6 with tuberculosis of the cervical lymph nodes. The patients consisted of 6 males and 2 females aged 11-75 years (mean: 43 years). The duration of symptoms ranged from 1 week to 4 months, with about 1 month being most frequent. Six patients had undergone treatment at other institutions before presentation to our hospital, and all of them had received antibiotics. We report the details of these patients together with discussion of the relevant literature.

### はじめに

近年結核は、公衆衛生の普及、生活水準の向上、抗結核剤の発達によって発生頻度及び死亡率は減少傾向にある<sup>1)</sup>。しかし現在も罹患者は多く感染症として注意が必要である。今回我々は当科における過去10年間における結核症例8例について検討をおこなった。

### 対象

対象は1987年から1996年までに当科にて結核症と診断された8例で、内訳は喉頭結核2例、

頸部リンパ節結核6例であった。年齢は、11歳から75歳までで、平均年齢43歳、男性6例、女性2例であった。病悩期間は、1週間から4カ月で、1カ月程度の病悩期間の症例が多かった。当院受診以前に他院で治療を受けていた症例は6例でいずれも抗生剤の投与を受けていた。

### 症 例

喉頭結核の2症例を示す (Table 1)。主訴は喉頭異常感および嚥声を訴え、病変部はそれぞれ喉頭蓋舌面に腫瘤状肉芽病変、左声帯に白

症例	主訴	病変部	ツ反	喀痰	胸部X-P
1) 75♂	喉頭異常感	喉頭蓋舌面	陰性	G2号	両肺尖部陰影
2) 59♂	嗄声	声帯	++	陰性	右上肺野陰影

Table 1 Two cases of laryngeal tuberculosis

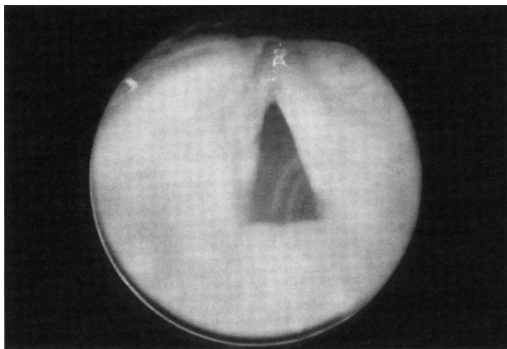


Fig.1 Photo of the vocal cord

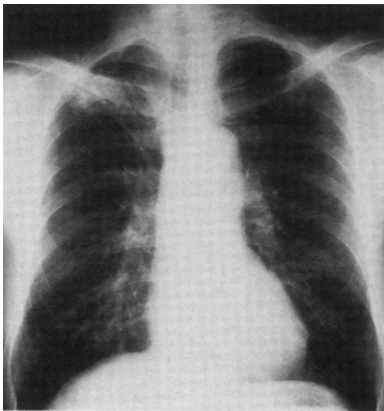


Fig.2 Chest X-P

苔をともなう腫瘤状病変を認めた。いずれも胸部単純X線写真にて陰影を認めツベルクリン反応では1例が中等度陽性、喀痰培養検査では1例がガフキー2号となった。特に症例1を詳述する。

症例は59歳男性、2カ月前より嗄声が出現

し、当科受診、初診時左声帯に灰白色の腫瘤状病変を認め (Fig 1), 精査目的にて入院のう え、喉頭微細手術を施行した。右上肺野に陰影を認め、当院呼吸器内科に読影依頼したところ 陳旧性結核の疑いが強いとのことであった (Fi g 2)。また術後の病理診断では類上皮細胞と ラングハンス巨細胞を認め結核性病変との診断 であったため呼吸器内科にてINH, RFP 投与 となった。

次に頸部リンパ節結核の6例を示す (Table 2)。主訴はいずれも頸部腫脹を訴えており、 ツベルクリン反応は、3例で陽性、喀痰培養は 1例でガフキー2号を認めた。胸部単純X線 写真にて陰影を認めたものは3例で、ツベルク リン反応、喀痰培養、胸部単純X線写真にお いて異常を認めなかった症例は1例であった。 すべての症例で生検が施行されており病理学的 に結核と診断されている。特に症例8を詳述す る。

症例は56才女性、2カ月前からの右頸部腫 脹を主訴に来院、造影CTにて右頸部に辺縁が 不規則に造影された腫瘤を認め、精査目的入院 となった (Fig 3)。胸部単純X線写真にて左 上～中肺野に陰影を認め当院呼吸器内科に読影 依頼したところ陳旧性結核の疑いとの回答をえ た (Fig 4)。ツベルクリン反応を施行したと ころ弱陽性であった。手術的に腫瘤を摘出し病 理的検索を施行したところ乾酪壊死を伴う肉

症例	主訴	ツ反	喀痰	胸部X-P
1) 14♂	左頸部腫脹	陰性	陰性	右下肺野陰影
2) 11♀	右耳前部腫脹	陰性	陰性	異常なし
3) 18♂	右頸部腫脹	陰性	G2号	両肺門部陰影
4) 45♂	右顎下部腫脹	+	陰性	異常なし
5) 71♂	右頸部腫脹	+	陰性	異常なし
6) 56♀	右頸部腫脹	+	陰性	左上中肺野陰影

Table 2 Six cases of tuberculous cervical lymphadenitis



Fig. 3 CT

芽, ラングハンス巨細胞を認め結核性病変との診断を得た. 呼吸器内科にて INH, RFP の 6 カ月投与となった.

#### 考 察

頸部リンパ節結核の感染経路は扁桃, 咽頭, 喉頭が感染門戸となり, その領域のリンパ流に沿って病変が形成される場合と, 初感染後に主として肺門, 縦隔リンパ節を侵襲した後に上行性に頸部リンパ節に波及する場合の 2 つが考え

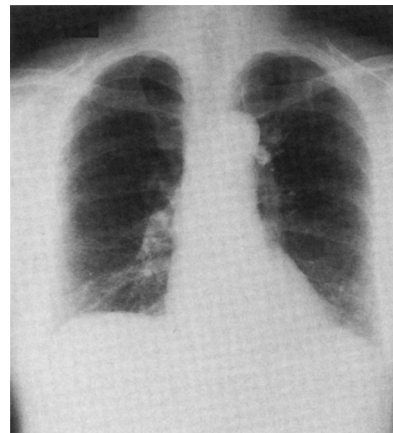


Fig. 4 Chest X-P

られている<sup>2)</sup>. 病変部位は管野らによると後頸三角に多く<sup>3)</sup>, 大石らによると 1~数個のリンパ節腫大をみることが多いとされている<sup>4)</sup>. 我々の症例では, 1例に耳前部の腫脹, 1例に顎下部の腫脹ををみとめた. また 6例中 4例には 1個のリンパ節腫大を認め 2例に複数のリンパ節腫大を認めた.

喉頭結核においては, 感染経路は肺結核より生ずる管内性続発性感染が主で, 原発性喉頭結核は, まれであるとされている<sup>1)</sup>. 豊田による

と抗結核剤の普及以前には肺結核患者において臨床的に喉頭結核が認められた症例が28%であったが抗結核剤の普及以後は2.2%であったという<sup>5)</sup>。

喉頭結核の肉眼的形態は浸潤型、潰瘍型、軟骨膜炎型、肉芽増殖型に分類される。鈴木らによると、重篤な症状を示す浸潤型、軟骨膜炎型は減少し緩慢な進行を示す肉芽増殖型が増加したとされている<sup>6)</sup>。

今回のわれわれの症例では、1例が喉頭蓋1例が声帯に病変を認め、いずれの症例も肉芽増殖型であると思われた。

文 献

- 1) 厚生統計協会：国民衛生の動向 41：160-165, 1994.
- 2) 竹生田勝次：頭頸部の結核. JOHNS VOL. 9 no. 6：947-952, 1993.
- 3) 菅野澄雄ほか：結核性頸部リンパ節炎の4症例. 耳鼻臨床 96：1297-1302, 1993.
- 4) 大石公子ほか：当教室12年間の頸部リンパ節結核の臨床統計的観察. 耳鼻臨床 79：609-616, 1965.
- 5) 豊田文一：喉頭結核の推移. 最新医学 20：2347-2348, 1965.
- 6) 鈴木康司：喉頭結核の2症例. 耳展 30.1：69-73, 1987.

質 疑 応 答

質問 鈴木賢二（名市大）

1. FNAの適応については、いかがでしょうか。
2. 結核症と診断された時、患者さんの隔離については、どのようにされてますか（治療はどのような状況下でおこなわれますか）

応答 森 淳（保衛大第2）

1. 今回の症例ではFNAは施行していない。診断補助として今後は施行していきたい。
2. 排菌患者は結核病棟での隔離が望ましいと考える。

質問 友田幸一（金沢医大）

家族歴、患者の背景にTbcと関連のある人がいたか、その率は。

応答 森 淳（保衛大第2）

結核の既往を持つ患者は認めなかった。結核の家族歴を持つ者も認めなかった。

連絡先：森 淳
〒454-0012 名古屋市中川区尾頭橋3-6-10
藤田保健衛生大学第二教育病院
TEL 052-323-5647 FAX 052-331-6843